

令和 7 年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価
(及び地域公共交通計画の評価結果) 概要 (全体)

東郷町地域公共交通会議 (東郷町)

平成 1 9 年 8 月 1 日設置

令和 3 年 3 月	東郷町地域公共交通計画策定 (計画期間：令和 3 年 4 月～令和 9 年 3 月)
令和 6 年 3 月	東郷町地域公共交通計画改訂

評価対象の地域公共交通確保維持事業

- ・ 地域間幹線系統確保維持国庫補助金
- ・ 地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金
- ・ 公有民営方式車両購入費国庫補助金

【東郷町の概要】

人口：43,925人（令和7年11月30日現在）

面積：18.03km²

特性：鉄道駅がないため、バス路線を中心に公共交通ネットワークを形成。
セントラル地区にバスターミナルを整備

交通
将来像

「公共交通が暮らしとともにある 安心して住み続けられるまち」

■ 基本方針1

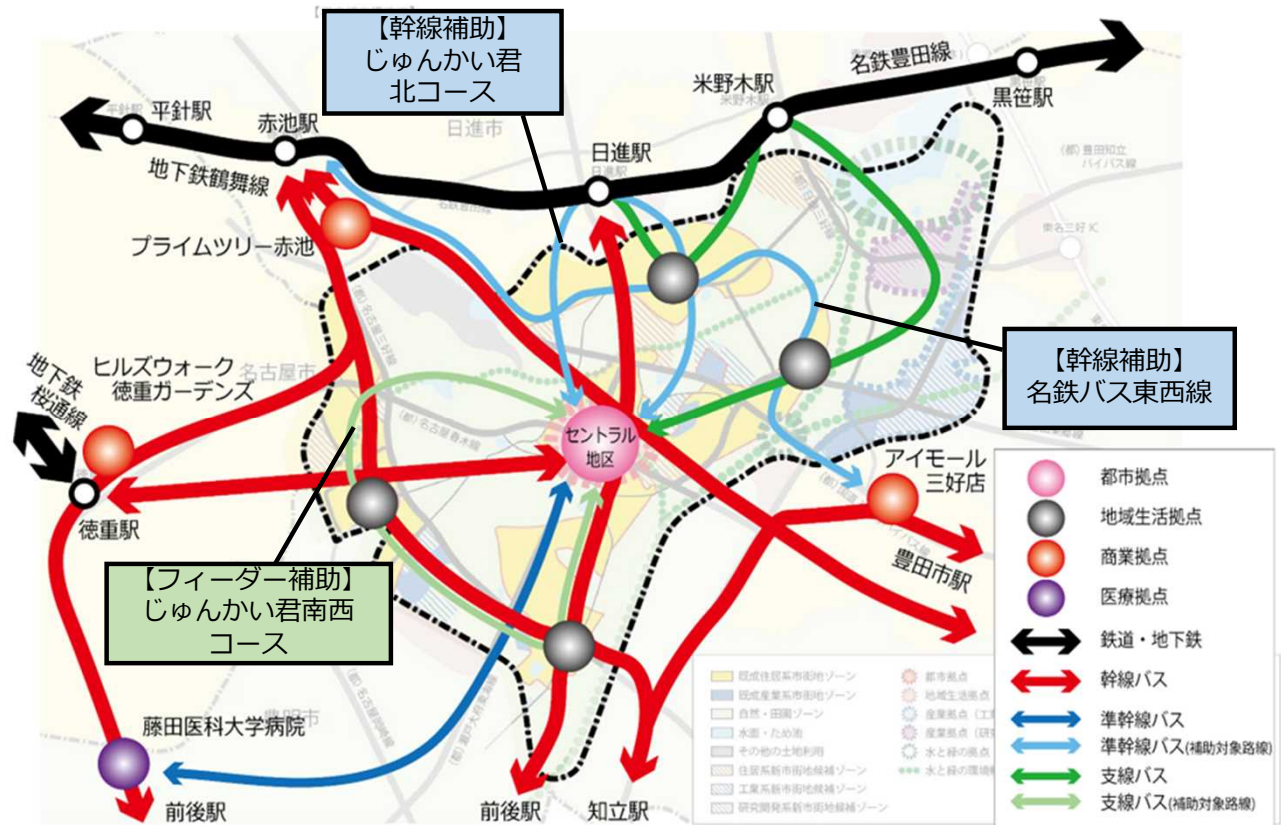
町内各地域及び尾三地区等の広域的な連携・交流を強化



■ 基本方針2

多様な公共交通手段により、地域に適した移動サービスを提供・導入

■ 基本方針3

東郷町の公共交通に関わる全ての関係者が交通と福祉の視点で連携・協働し、公共交通を支え育む取組を展開



取組名称	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
<p>【基本方針1、2】</p> <p>★じゅんかい君の運行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北コース（幹線補助受給系統） ・南西コース（フィーダー補助受給系統） ・東コース 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミバスの運行を継続 ・R6年度に老朽化した車両を更新した（幹線1台、フィーダー1台） 	<ul style="list-style-type: none"> ・前年に比べて利用者が約1割増加（R5：196,524人⇒R6：216,032人） ・初の20万人超えを達成 ・R6年度高額修理 721,893円 （R3～R5平均 5,732,677円） 	<ul style="list-style-type: none"> ・路線再編の成果が表れ、利用者が増加。 ・各種啓発活動により周知が進み、生活に路線が定着してきている。 ・老朽車両の更新により高額修理費が減少
<p>【基本方針1、3】</p> <p>キャッシュレス決済導入</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コミバスの利便性向上のためキャッシュレス決済を導入（R7.4～） ・導入コスト及び普及率を考慮し、コード決済を選択 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャッシュレス比率12%（R7.10現在） 	<ul style="list-style-type: none"> ・バス停に二次元コードを貼付し、利用者が予め読み込む方式としたことで、乗車時の支払いのモタつき防止。 ・現金の取り扱いが減少し、運行事業者からも好評であった。
<p>【基本方針2、3】</p> <p>サイクル&バスライド</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・バスターミナル付近の商業施設駐輪場を活用したサイクル&ライドの実施に向け、商業施設と継続的に協議を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・商業施設との連携により、R7.4から実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設管理上の問題も生じておらず、現在まで円滑に運用されている。 ・引き続き関係機関と利便性の向上に資する取組の協議を継続していく。

取組名称	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
<p>【基本方針2、3】 地域の輸送資源活用 事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自動車学校スクールバスの空席を活用した地域住民の混乗化 コミバス路線再編後、不満割合の増加（10.5ポイント悪化）を受け実施 対象者：65歳以上の町民（一人で乗降可能な者） 運行日：自動車学校営業日（スクールバス運行日） ルート：ららぽーと・三ツ池線 便数：4便/日 <p>【じゅんかい君総合満足度】</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 協定期間：R7.6～R8.3 運行期間：R7.6～R8.3（実証） 登録者数：36人（R7.11末） 利用件数：31件（R7.11末） <p>【協力事業者協定締結式】</p>  <p>【ルート】</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 減便した地域を走行するスクールバスを活用することで、コミバス便数を仮想的に倍増（コミバス4便+スクールバス4便） 利用件数が少なく、周知が進んでいないと思われる。 本町の特性として「コミ」による効果が大きいため、住民懇談会や地区回覧等周知を加速させる必要がある。 <p>【コミバス補完イメージ】</p>  <p>【地区回覧版】</p> 
<p>【基本方針3】 はたらく乗りもの フェスタ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 町内商業施設で消防車やレッカー車等を展示するイベントに地元交通事業者とともに参加 ジャンボタクシー展示、写真撮影、啓発品配布を実施 	<p>R6:10/26（土）27（日）開催 参加者：4,467人 R7:11/8（土）9（日）開催 参加者：1,800人</p>  	<ul style="list-style-type: none"> 町主催のイベントでは展示されない車両も多くあり、多くの集客があった。 バス以外の車両を展示したことで、タクシーの啓発にもつながったと考える。  

取組名称	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
<p>【基本方針3】 小学生向け乗り方教室の開催（名鉄バス）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 放課後子ども教室でバス乗り方教室を実施 座学その他、車両とバス停を学校へ搬入し、ICを用いた乗車体験を実施 	<p>R5:30人（諸輪小学校） R6:26人（音貝小学校） R7:予定（高嶺小学校）</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 打合せの中で「バスの死角について学ばせたい」といった放課後子ども教室側からの意見もあり実施、利用促進のみならず「安全教育」の場としても有意義であった。
<p>【基本方針1、3】 バスフェスティバル（尾三連携）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 尾三地区自治体による広域利用促進イベントとして、みよし市内の大型商業施設と連携し開催 各自治体のコミバス車両展示 ワークショップ開催 抽選会 	<p>R7.2.9（日） 参加者約2,000人 （みよし27.5%、豊明5.9%、長久手9.8%、東郷9.2%）</p> <p>【各自治体のコミバス】</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 各自治体のコミバス運行事業者の他、名古屋鉄道(株)、愛知高速交通(株)等幅広く参加していただき、広域の交通を支える事業者とともに地域交通の利用促進を呼びかけることができた。 本町住民以外の近隣住民にも各自治体のコミバスのPRができ、バスへの関心が高まった。（アンケート結果：高まった、やや高まったとの回答94.7%）
<p>【基本方針3】 CentXおでかけ促進施策</p>	<p>CentX「エリアdeふらっとウォーク」にコース設定し、公共交通利用促進を実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> R6.3.21～6.30まで実施（日進駅⇔ららぽーと愛知東郷をコースに設定） ゴール地点での特典配布者約10名 	<p>・コミバスの利用やマースアプリの周知に寄与</p> 

計画目標・評価指標	達成状況	達成状況	考察
東郷セントラル地区を中心とした利便性の高い公共交通ネットワークの形成 【基本方針1】	公共交通全体の利用者数	努力目標：未達成 必達目標： 達成 ●努力目標 214万人/年 （実績値） 2,093,461/年 ●必達目標 じゅんかい君の年間利用者数15万人 （実績値） 216,032人	<ul style="list-style-type: none"> ・努力目標は未達成だが、<u>着実に利用者が増加</u>。 ・自治会協力のもと、町内全地区へのチラシ回覧を実施する等、<u>各種公共交通の周知、啓発活動の成果が表れている</u>。 ・必達目標については、<u>路線再編の成果が表れ、目標を大きく上回り達成</u>。<u>初の20万人越え</u>を達成し、キャンペーンを実施。
東郷セントラル地区のバスターミナルを活用し、公共交通相互の連携を強化 【基本方針1】	都市拠点内※の利用者数 ※和合西口、和合、いこまい館、ららぽーと愛知東郷バス停	未達成 現況値(R2)： 1,015人/日 目標値：1,200人/日 実績値：1,163人/日	<ul style="list-style-type: none"> ・R3年度に<u>バスターミナルを発着とした路線に再編したこと</u>で、<u>増加</u>している。 ・R5年度に東郷藤田医大バスのダイヤをじゅんかい君との<u>乗り継ぎを考慮したダイヤに修正</u>したことや隣接する商業施設の利用者の影響もあり、<u>「ららぽーと愛知東郷バス停」の利用者数が前年度比で約10%増加</u>した。

計画目標・評価指標

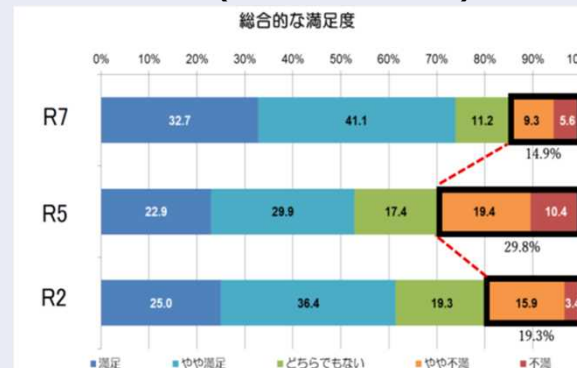
達成状況

考察

既存の公共交通に新たなモビリティを加えた多様な公共交通手段を提供
【基本方針2】

じゅんかい君の満足度
（不満割合）

目標値：19.3%未満
（R2年度未満）
現況値：**達成**(R7：14.9%)
参考値：(R5：29.8%)



- ・R3年に路線再編をしたが、便数が減少した地区からの不満が続出
- ・このため「地域の輸送資源の活用」等3つのアクションプログラムを新たに定め、スクールバスの混乗化をR7.6から実施している。
- ・路線再編から4年経過したことで、周知が進んだこと及び生活に路線が定着してきたと思われ、最新の調査では不満割合が減少した。
また、公共交通機関全体の満足度も向上した。

公共交通機関の整備に対する満足度

目標値：25.5%(R12)
現況値：**達成**(R6：39.7%)
参考値：(H30：13.4%)

- ・交通と福祉の視点ですべての関係者が連携・協働した取組を展開
 - ・公共交通を安心して利用できる対策の実施と情報を提供
- 【基本方針3】

庁内他部署や複数の実施主体が連携・協働した取組の件数

達成
目標値：12件/年
実績値：14件/年

（尾三地区自治体連携によるイベント、商業事業者と連携した施策、包括支援センターとの協議等）

- ・近隣自治体と関係性が強い地域であり、公共交通においても広域の観点から共同でイベントを実施している。
- ・協議会に近隣自治体も構成員として参加し、議論が共有されている。
- ・商業事業者と意見交換を継続して実施。日ごろの関係性構築により交通施策にもご協力いただいた。
- ・庁内他部署との情報交換により、デマンドタクシー事業に包括支援センターの協力を得たり、就職フェアに交通事業者が参加することができた。

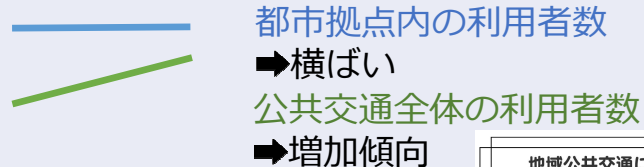
計画目標・評価指標		達成状況	考察
地域公共交通確保維持改善事業 （★地域間幹線系統確保維持費国庫補助）	じゅんかい君北コース利用者数	目標値：131,055人 現況値：144,664人 達成	・巡回バス路線再編（R3.4）以降、本路線の利用者数は毎年増加しており、路線が地域に定着してきたことによるものと推察される。
	輸送量	計画：40.1 実績：53.5 達成 （平均乗客密度：2.4） （運行回数：22.3）	
	収支率	計画：19.82% 実績：20.66% 達成	
地域公共交通確保維持改善事業 （★地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助）	じゅんかい君南西コース利用者数	目標値：30,423人 実績値：35,405人 達成	・巡回バス路線再編（R3.4）以降、本路線の利用者数は毎年10%程度の伸びを示しており、路線が地域に定着してきたことによるものと推察される。
地域公共交通確保維持改善事業 （★公有民営方式車両購入費国庫補助）	高額修理費（30万円以上/件）	目標：9,637千円（R3実績）から半減以下 実績：722千円 達成	<ul style="list-style-type: none"> ・車両代替によるリース費用及び高額修理費の削減効果が、3,962千円（前年度比）となった。 ・商業事業者と連携した公共交通利用促進イベントにおける車両展示に活用したこと及びH24から採用する愛着あるデザインの車体ラッピングにより、公共交通への愛着を醸成した。

計画目標の現在の到達点

【計画全体】

公共交通全体の利用者数は必達目標を達成。
努力目標及び都市拠点内の利用者数は未達成ではあるものの、着実に増加傾向にある。

目標値



R7住民懇談会の様子



今後の取組方針

- ・ コミバス利用者数が初の20万人越えを達成し、順調に利用者数が増えていることから、引き続き利用促進事業を実施する。
- ・ 既に導入済みのコード決済以外のキャッシュレス方式についても導入を検討し、利便性向上を目指す。
- ・ 町内ネットワークの最適化のため、**コミバス路線の見直しをR9.10に実施予定**
- ・ R7年度実施の住民アンケート等各種調査結果を分析し路線見直し(案)を作成
- ・ R7年度に引き続きR8年度も町内全地区で住民懇談会を開催する。**自治体のトップ自らが直接住民の生の声を伺うこと**で、各種調査のデータでは推し量れない住民感情やニュアンスを把握するとともに、住民の公共交通に係る意識の醸成を図ることで公共交通の共創につなげたい。

【計画全体】

庁内他部署や複数の実施主体が連携・協働した取組の件数については達成している。

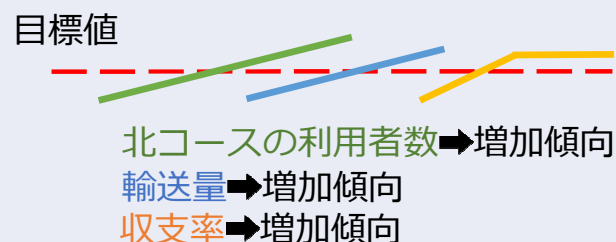
- ・ 今後も引き続き尾三地区広域公共交通会議を活用し、路線やイベントについて利用促進策を実施
- ・ 公共交通利用の多い高齢者と密に接する地域包括支援センターと連携し、バスやデマンドタクシー利用について広く周知する。
- ➡引き続き、町内他部署や複数の実施主体が連携・協働し、目標値を達成できるよう取り組む。

計画目標の現在の到達点

【幹線系統】

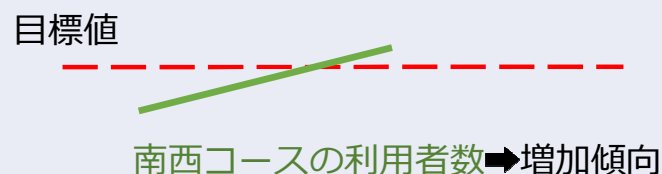
- ・じゅんかい君北コースは、路線再編（R3.4）以降利用者が毎年増加し、路線が地域に定着してきたことによるものと推察される。

目標利用者数を達成し、輸送量、収支率も計画を上回っている。



【フィーダー系統】

- ・じゅんかい君南西コースは、路線再編（R3.4）以降利用者が毎年10%程度の伸びを示しており、路線が地域に定着してきたことによるものと推察され目標利用者数を達成。



今後の取組方針

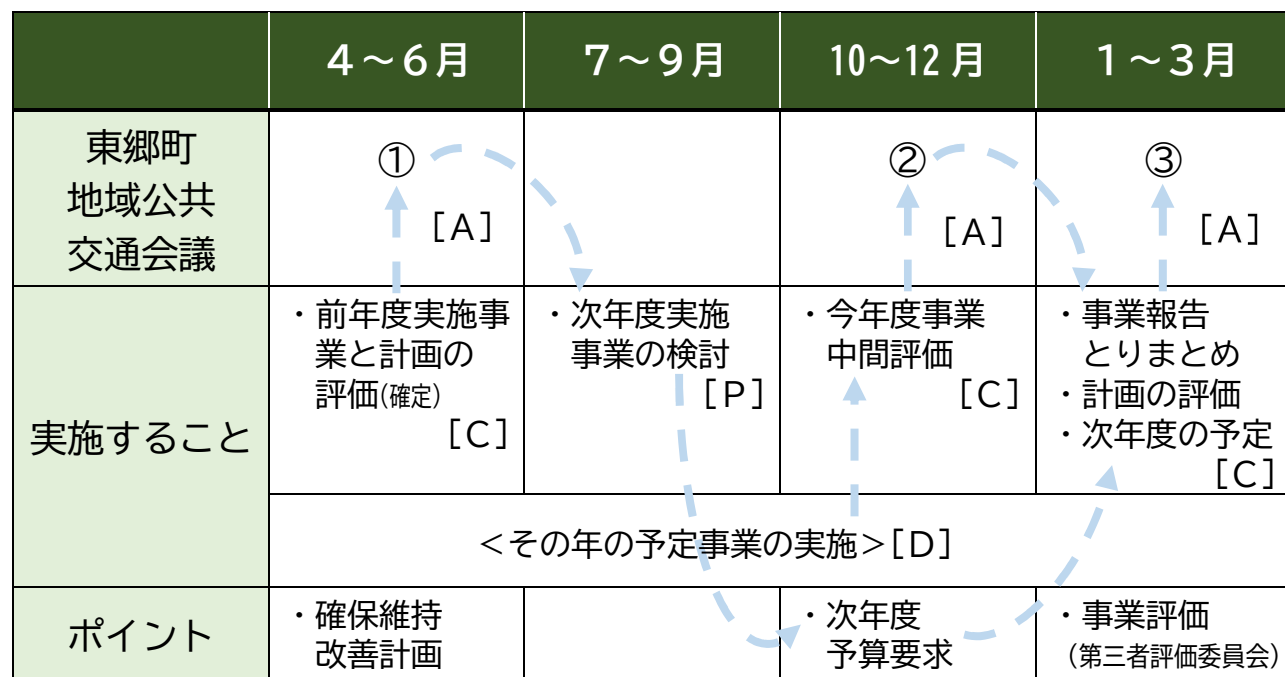
- ・引き続き、地域の輸送資源を活用した事業の実証運行を実施し、利用者の利便性向上を図る。
- ・次回の路線見直しに向けて各種アンケート調査、住民懇談会を実施し、各地区でのニーズを把握し、町全体で最適な路線、ダイヤの検討を実施する。
- ・町ホームページ、広報、地区回覧等による定期的な案内により、公共交通全体の周知及び利用促進を図る。
- ・引き続き、商業事業者、近隣自治体、運行事業者が連携し、交通ネットワーク全体の利用促進イベントを実施する。

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回	<ul style="list-style-type: none"> ・輸送量や収支率が低く、維持が危ぶまれる地域間幹線系統については、状況を注視し、運行事業者や沿線自治体等と連携した取組の実施等、利用促進・系統維持等に資する取組が実施されることを期待します。 <p>【幹線系統確保維持費国庫補助金】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・商業事業者、運行事業者及び尾三地区自治体と連携し、尾三地区広域公共交通推進会議による広域を含めた公共交通利用促進イベントを実施しました。 ・新たな取組として、令和7年4月から巡回バスへのキャッシュレス決済を導入し、利用者の利便性向上を図りました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、地域の輸送資源を活用した事業の実証運行を実施し、利用者の利便性向上を図る。 ・次回の路線見直しに向けて各種アンケート調査、住民懇談会を実施し、各地区でのニーズを把握し、町全体で最適な路線、ダイヤの検討を実施する。 ・町ホームページ、広報、地区回覧等による定期的な案内により、公共交通全体の周知及び利用促進を図る。 ・引き続き、商業事業者、近隣自治体、運行事業者が連携し、交通ネットワーク全体の利用促進イベントを実施する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、利用者や各種主体と連携した、行動変容や認知度向上、利用促進に繋がる取組が継続されることを期待します。 ・地域間幹線系統である星ヶ丘・豊田線の輸送量が補助基準値の下限に近い状況であるため、上記を含む利用促進のほか、公共交通ネットワークとしての広域的な取組を期待します。 <p>【フィーダー系統確保維持費国庫補助金】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな取組として、①令和7年4月から「巡回バスへのキャッシュレス決済の導入」、②令和7年6月から「スクールバスの空席を活用した地域の輸送資源活用事業」の実証運行を開始しました。 ・星ヶ丘・豊田線の案内チラシを町内全地区へ回覧し、路線の周知及び利用促進を図りました。 ・商業事業者と連携し、尾三地区広域公共交通推進会議による広域を含めた公共交通利用促進イベントを実施しました。 	

※前回：令和7年3月27日

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前々回	<ul style="list-style-type: none"> ・地域間幹線系統である星ヶ丘・豊田線について、輸送量が基準値の下限に近い状況であるため、沿線市と連携した利用促進の取組が今後も継続的に実施されるように努めると共に、じゅんかい君との乗り継ぎ等、公共交通ネットワークとしての広域的な取組を期待します。 【フィーダー系統確保維持費国庫補助金】 	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知県の広域的・幹線的なバス路線の維持に向けた利用促進モデル事業に参加した他、商業事業者と連携し、尾三地区広域公共交通推進会議による広域を含めた公共交通利用促進イベントを実施しました。また、MaaSアプリと連携したお出かけ促進を実施しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・商業事業者、近隣自治体、運行事業者が連携し、交通ネットワーク全体の利用促進イベントを実施する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通計画の中間見直しによって見出された地域住民のニーズや課題を踏まえ、地域間幹線系統、じゅんかい君、デマンドタクシー等の地域交通が連携し、利便性が高く、効率的な公共交通ネットワークが構築できるよう、課題意識をもって計画改定がなされることを期待します。 【調査事業（計画策定）】 	<ul style="list-style-type: none"> ・顕在化した課題の解決のため、新たに地域の輸送資源の活用を始めとした、3つのアクションプログラムを定め、令和6年3月に計画を改訂しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の輸送資源を活用した事業について、関係者との協議・合意形成を図り、事業実施を目指す。 ・引き続きG T F Sデータを整備すること及び新たにキャッシュレス決済の導入を進めることで利用者の利便性向上を図る。 ・地区回覧等により民間バス路線の利用促進を図る。

※前々回：令和6年3月21日



【地域公共交通会議の実施状況】

(令和6年度)

■第1回地域公共交通会議 6月12日

主な議題：地域公共交通計画認定申請、地域公共交通計画の評価結果

■第2回地域公共交通会議 12月27日

主な議題：令和6年度地域公共交通確保維持改善事業に係る事業評価、令和7年度東郷町地域公共交通計画に関する事業計画、令和7年度東郷町地域公共交通会議予算、地域の輸送資源活用事業（実証運行）、キャッシュレス決済導入、次期公共交通計画策定スケジュール

(令和7年度)

■第1回地域公共交通会議 6月19日

主な議題：地域公共交通計画認定申請、地域公共交通計画の評価結果、次期公共交通計画策定等に係るニーズ調査

■第2回地域公共交通会議 10月29日

主な議題：各種ニーズ調査結果（速報）、令和7年度上期における公共交通の利用状況

■第3回地域公共交通会議 12月22日

主な議題：令和7年度地域公共交通確保維持改善事業に係る事業評価、各種ニーズ調査結果、現行計画評価

■第4回地域公共交通会議 2月（予定）

主な議題：課題整理、路線見直し方針

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年12月22日

協議会名: 東郷町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
【補助対象となる事業者 名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備 内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業に おいて、車両減価償却費等及び公有民営方式車 両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている 場合、離島航路に係る確保維持事業において離 島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を 受けている場合は、その旨記載】	【事業評価の評価対象期間 において、前回の事業評価 結果をどのように生活交通 確保維持改善計画に反映さ せた上で事業を実施したか を記載】	A ・ B ・ C 評価	【計画に基づく事業が適切に実 施されたかを記載。計画どおり 実施されなかった場合には、理 由等記載】	A ・ B ・ C 評価
【地域間幹線系統】 瀬戸自動車運送株式会 社 北コース	・系統名:北コース ・経路:ららぽーと愛知東郷～日進駅～ ららぽーと愛知東郷 ※公有民営方式車両購入費国庫補助 金活用	・輸送量や収支率が低く、維 持が危ぶまれる地域間幹線 系統については、状況を注 視し、運行事業者や沿線自 治体等と連携した取組の実 施等、利用促進・系統維持 等に資する取組が実施され ることを期待します。 ➡ ・商業事業者、運行事業者 及び尾三地区自治体と連携 し、尾三地区広域公共交通 推進会議による広域を含め た公共交通利用促進イベン トを実施しました。 ・新たな取組として、令和7年 4月から巡回バスへのキャ ッシュレス決済を導入し、利 用者の利便性向上を図りまし た。	A 遅延などによる運休はなく、事業 が計画に位置付けられたとお り、適切に実施された。	【北コース】 ■事業の目標・効果 目標利用者 131,055人 利用者実績 144,664人(達成) 令和3年4月の巡回バス路線の 再編以降、本路線の利用者数は 毎年増加しており、路線が地域 に定着してきたことによるものと 推察される。 ■輸送量 当該年度計画:40.1 当該年度実績:53.5 平均乗車密度:2.4 運行回数:22.3 ■収支率 当該年度計画:19.82% 当該年度実績:20.66%	・引き続き、商業事業者、近隣自治体、 運行事業者が連携し、交通ネットワ ーク全体の利用促進イベントを実施す る。 ・既に導入済みのコード決済以外の キャッシュレス方式についても導入を 検討し、利便性向上を目指す。 ・町内ネットワークの最適化のため、令 和9年10月のコミバス路線見直しに向 けて、昨年度実施の住民アンケート等 各種調査結果を分析し路線見直し (案)を作成する。 ・昨年度に引き続き、今年度も町内全 地区で住民懇談会を実施し、各種調査 のデータでは推し量れない住民感情や ニュアンスを把握するとともに、住民の 公共交通に係る意識の醸成を図ること で、公共交通の共創につなげる。 ・引き続き、地域の輸送資源を活用し た事業の実証運行を実施し、利用者の 利便性向上を図る。 ・町ホームページ、広報、地区回覧等 による定期的な案内により、公共交通 全体の周知及び利用促進を図る。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和7年12月22日

協議会名：	東郷町地域公共交通会議
評価対象事業名：	地域間幹線系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>全国的に少子高齢化が進み、本町においても運転免許証の返納者は増加することが予想されるが、本町には鉄道駅がないため、自動車交通に依存する交通特性となっている。</p> <p>このような中、本町では、東郷中央土地区画整理事業を核とするまちづくり「セントラル開発」において、まちに不足する大型商業施設や本町の交通結節点となるバスターミナルを整備し、町民が歩いて暮らせるコンパクトシティを目指したまちづくりを進めている。このことから、本町では、令和3年4月より本町のコミュニティバスであるじゅんかい君を全路線、バスターミナルを発着点とする路線再編を実施した。</p> <p>北コースは、町の中心部の公共施設及び大型商業施設と近隣市の鉄道駅を結ぶ路線であることから、町民の通勤・通学や買い物等の需要としてだけでなく、町外からの大型商業施設等の利用者の需要にも応じた重要な路線ある。更には町南西部を運行している南西コースとバスターミナルで接続し、町南西部の町民が公共交通を利用して町北部及び鉄道駅に移動するために欠かすことのできない路線である。</p> <p>以上のことから、沿線の町北部の町民だけでなく、町全体の公共交通における移動を円滑にするとともに外出機会の創出を図るためには、当該事業を維持することが必要である。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年12月22日

協議会名: 東郷町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
【補助対象となる事業者 名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備 内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業に おいて、車両減価償却費等及び公有民営方式車 両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている 場合、離島航路に係る確保維持事業において離 島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。) を受けている場合は、その旨記載】	【事業評価の評価対象期間 において、前回の事業評価 結果をどのように生活交通 確保維持改善計画に反映さ せた上で事業を実施したか を記載】	A ・ B ・ C 評価 【計画に基づく事業が適切に実 施されたかを記載。計画どおり 実施されなかった場合には、理 由等記載】	A ・ B ・ C 評価 【計画に位置付けられた定量的 な目標・効果が達成されたかを、 目標ごとに記載。目標・効果が 達成できなかった場合には、理 由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記 載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地 域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果 を生活交通確保維持改善計画にどのように反映 させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載 すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその 旨記載
【地域内フィーダー系 統】 瀬戸自動車運送株式会 社 南西コース	・系統名:南西コース ・経路:ららぽーと愛知東郷～祐福寺～ ららぽーと愛知東郷 ※公有民営方式車両購入費国庫補助 金活用	・引き続き、利用者や各種主 体と連携した、行動変容や 認知度向上、利用促進に繋 がる取組が継続されることを 期待します。 ➡ ・新たな取組として、①令和7 年4月から「巡回バスへの キャッシュレス決済の導 入」、②令和7年6月から「ス クールバスの空席を活用し た地域の輸送資源活用事 業」の実証運行を開始しまし た。 ・地域間幹線系統である 星ヶ丘・豊田線の輸送量が 補助基準値の下限に近い状 況であるため、上記を含む 利用促進のほか、公共交通 ネットワークとしての広域的 な取組を期待します。 ➡ ・星ヶ丘・豊田線の案内チラ シを町内全地区へ回覧し、 路線の周知及び利用促進を 図りました。商業事業者と連 携し、尾三地区広域公共交 通推進会議による広域を含 めた公共交通利用促進イベ ントを実施しました。	A 遅延などによる運休はなく、事業 が計画に位置付けられたとお り、適切に実施された。	A 【南西コース】 ■事業の目標・効果 目標利用者 30,423人 利用者実績 35,405人(達成) 令和3年4月の巡回バス路線の 再編以降、本路線の利用者数は 毎年10%程度の伸びを示してお り、路線が地域に定着してきたこ とによるものと推察される。 (参考) ■輸送量に関するその他事項 運行回数 2,756回 ■収支率に関する事項(補助金 交付申請書より) ①令和7年度収入額実績値 660,431円 ②令和7年度経常経費 15,041,045円 ③令和7年度収支率 ①÷②×100=4.39%	・引き続き、商業事業者、近隣自治体、 運行事業者が連携し、交通ネットワ ーク全体の利用促進イベントを実施す る。 ・既に導入済みのコード決済以外の キャッシュレス方式についても導入を 検討し、利便性向上を目指す。 ・町内ネットワークの最適化のため、令 和9年10月のコミバス路線見直しに向 けて、昨年度実施の住民アンケート等 各種調査結果を分析し路線見直し (案)を作成する。 ・昨年度に引き続き、今年度も町内全 地区で住民懇談会を実施し、各種調査 のデータでは推し量れない住民感情や ニュアンスを把握するとともに、住民の 公共交通に係る意識の醸成を図ること で、公共交通の共創につなげる。 ・引き続き、地域の輸送資源を活用し た事業の実証運行を実施し、利用者の 利便性向上を図る。 ・町ホームページ、広報、地区回覧等 による定期的な案内により、公共交通 全体の周知及び利用促進を図る。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和7年12月22日

協議会名：	東郷町地域公共交通会議
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>全国的に少子高齢化が進み、本町においても運転免許証の返納者は増加することが予想されるが、本町には鉄道駅がないため、自動車交通に依存する交通特性となっている。</p> <p>このような中、本町では、東郷中央土地区画整理事業を核とするまちづくり「セントラル開発」において、まちに不足する大型商業施設や本町の交通結節点となるバスターミナルを整備し、町民が歩いて暮らせるコンパクトシティを目指したまちづくりを進めている。このことから、本町では、令和3年4月より本町のコミュニティバスであるじゅんかい君を全路線、バスターミナルを発着点とする路線再編を実施した。</p> <p>これにより、南西コースにおいては、バスターミナルで北コース、東コース及び民間バス路線に乗り継ぐことにより、公共交通機関を利用して町北東部及び近隣市の鉄道駅にアクセスすることが可能となり、町南西部の町民の公共交通における移動を円滑にするとともに外出機会の創出を図ることを目的として、事業を実施した。</p> <p>町南西部においても基幹バスは運行しているが、主要道路での運行となっており、そのみでは町南西部全域を網羅できない。そのため、基幹バスやじゅんかい君等が乗入れるバスターミナルでの乗り継ぎを円滑にし、町南西部の町民の公共交通における移動を円滑にするとともに外出機会の創出を図るためには、当該事業を維持することが必要である。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年12月22日

協議会名: 東郷町地域公共交通会議

評価対象事業名: 公有民営方式車両購入費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
【補助対象となる事業者 名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備 内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業に おいて、車両減価償却費等及び公有民営方式車 両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている 場合、離島航路に係る確保維持事業において離 島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を を受けている場合は、その旨記載】	【事業評価の評価対象期間 において、前回の事業評価 結果をどのように生活交通 確保維持改善計画に反映さ せた上で事業を実施したか を記載】	A・B・C 評価 【計画に基づく事業が適切に実 施されたかを記載。計画どおり 実施されなかった場合には、理 由等記載】	A・B・C 評価 【計画に位置付けられた定量的 な目標・効果が達成されたかを、 目標ごとに記載。目標・効果が 達成できなかった場合には、理 由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記 載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地 域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果 を生活交通確保維持改善計画にどのように反映 させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載 すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその 旨記載
公有民営方式車両購入 費国庫補助金	・幹線系統(北コース):1台 ・フィーダー系統(南西コース):1台	・車齢10年かつ60万キロ以 上走行した車両2台(幹線系 統1台、フィーダー系統1台) を購入した車両に更新した。	A 計画に位置付けられたとおり、 事業が適切に実施された。	A ■事業の目標・効果 ・目標 高額修理(30万円以上/件)にか かる費用を9,637千円(令和3年 度実績)から半減以下 ・実績 高額修理費用を722千円(令和6 年度実績)に削減でき、目標を 達成 ■収支改善計画の実施内容 ①車両の代替による費用削減 ・車両の代替によるリース費用 及び高額修理費用の削減効果 が、3,962千円(前年度比)となっ た。 ②代替車両を活用した利用促進 策 ・商業事業者と連携した尾三地 区自治体の公共交通利用促進 イベント(バスフェスティバル)に おける車両展示に活用した。 ・平成24年から採用している愛 着あるデザインの車体ラッピング を実施し、公共交通への愛着を 醸成した。	・本事業については、今年度が補助2 年目であり、今年度で事業完了。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和7年12月22日

協議会名：	東郷町地域公共交通会議
-------	-------------

評価対象事業名：	公有民営方式車両購入費国庫補助金
----------	------------------

地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>故障リスクの高い老朽車両から新型車両へ更新することにより、じゅんかい君北コース(幹線系統)及び南西コース(フィーダー系統)の安定的な運行を維持することができ、住民の日常生活に必要不可欠な移動手段が確保される。また、高額修理費用の削減、燃費の改善及び乗り心地の改善等が期待でき、安定かつ快適な輸送サービスの提供が可能となる。</p> <p>じゅんかい君に充当しているバス車両は、車齢約10年かつ50万km以上を運行した車両が存在しており、故障も頻発し運行に支障が生じている状況であることから、安定かつ快適な輸送を確保するため、車両の更新が必要である。</p>
-----------------------------	---